

聴覚障がい者に対応した火災警報設備等のあり方に関する検討会 報告書 骨子（案）

第 1 検討の概要

- 1 趣旨
- 2 検討体制（第 1 回資料 1-2、第 2 回資料 2-5）
- 3 検討会の開催状況
- 4 検討の進め方（第 1 回資料 1-3）

第 2 聴覚障がい者に対応した火災警報設備等の現状等

- 1 消防法上の主な規定（第 1 回参考 1-1）
- 2 過去の検討経緯（第 1 回参考 1-2）
- 3 ユニバーサルデザインに対応した火災警報設備の現状（第 1 回資料 1-4）

第 3 聴覚障がい者に対応した火災警報設備等に係るニーズ調査・モニタリング調査、設置事例調査及びこれらの調査に係る分析の結果概要

（第 3 回資料 3-2 に追加）

第 4 聴覚障がい者に対応した火災警報設備等の普及促進の考え方

（項目は第 2 回資料 2-5 を基本として整理）

- 1 検討の対象品目（海外において基準規格や普及実績がある機器を中心に）
- 2 警報の伝達手段（音と光のセットを基本として、振動や聞き取りやすい音等についても補完的に整理）
- 3 機器の規格、設置方法（事業所向けを主眼として、共通事項については住宅向けに反映；海外の基準規格、モニタリング調査の結果等を基に整理）
- 4 機器間の接続方法の統一（有線／無線、住宅用／ホテル用）
- 5 普及促進のための具体的方策（製造・流通面、制度面、財政上の手当て等；新築及び既存建物への対応等）

第 5 聴覚障がい者に対応した火災警報設備等の今後の研究・開発の課題

（振動、文字表示、聞き取りやすい音等を中心に）

第 6 まとめ

<参考資料>

- ・ 聴覚障がい者に対応した火災警報設備等に係るニーズ調査・モニタリング調査、設置事例調査及びこれらの調査に係る分析の結果（詳細）（第 3 回参考資料 3-1、3-2 に追加）
- ・ 海外における規格・基準等（第 2 回参考資料 2-1）